

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

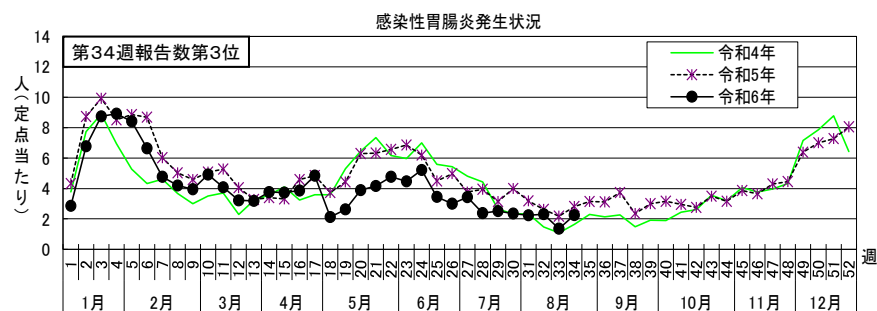
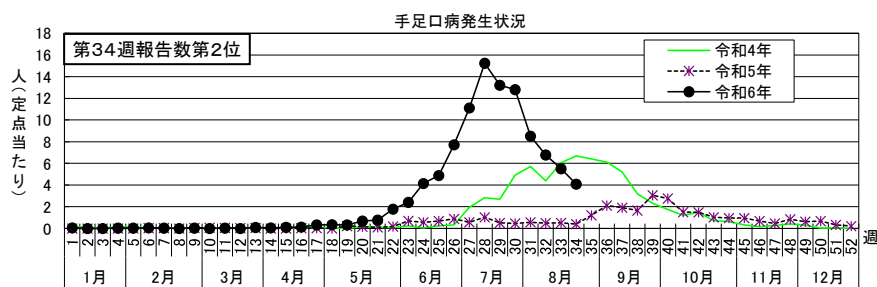
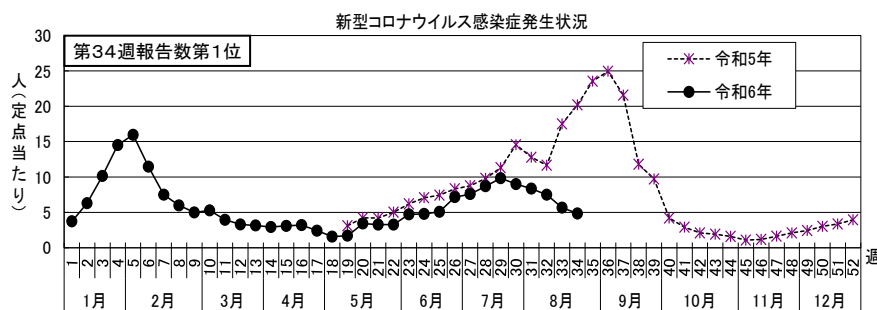
令和6年8月19日（月）～令和6年8月25日（日）〔令和6年第34週〕の感染症発生状況

第34週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）新型コロナウイルス感染症 2）手足口病 3）感染性胃腸炎でした。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は4.83人と前週（5.62人）から横ばいでした。

手足口病の定点当たり患者報告数は4.08人と前週（5.50人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.25人と前週（1.36人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

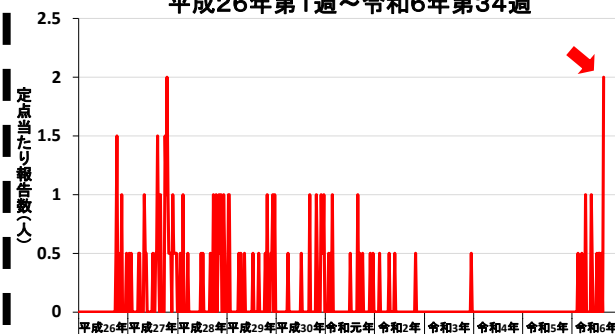


今、気をつけたい感染症～マイコプラズマ肺炎～

マイコプラズマ肺炎は、かつては数年周期で大きな流行がみられていましたが、川崎市では平成27年の流行を最後に患者報告数は減少し、近年では新型コロナウイルス感染症の流行による影響を受けて、報告はほとんどみられなくなりました。しかし、令和6年に入り再び報告数が増加しています。

マイコプラズマ肺炎の主な症状は、発熱やだるさ、頭痛、乾いた咳であり、熱が下がった後も咳が3～4週間程度続くのが特徴です。多くは軽症のまま回復しますが、肺炎を合併し入院が必要となることもあります。飛沫及び接触により感染するため、特に家庭内や集団施設内では感染のリスクが高いといわれています。咳等の症状がある場合は、マスクの着用や咳エチケット等の予防対策の徹底を心がけましょう。

川崎市におけるマイコプラズマ肺炎の発生状況
平成26年第1週～令和6年第34週



マイコプラズマ肺炎とは？

病原体：肺炎マイコプラズマ

感染経路：飛沫感染、接触感染

潜伏期間：2～3週間

主な症状：発熱、だるさ、頭痛、乾いた咳

好発年齢：14歳以下が約8割を占める。

治療：抗菌薬の投与等

予防対策



マスクの着用



咳エチケット



手指衛生